

## 株式会社ジェイコム南横浜

### 2017年度 放送番組審議会 議事録

2017年度の放送番組審議会は、2018年3月15日(木)に株式会社ジェイコム南横浜で開催された。

＜放送番組審議会委員＞ (五十音順)

—ご出席—

菊嶋 秀生 様	鴫田 要一 様	原 久美子 様
本多 淳一 様	山野井 正郎 様	渡辺 ひとみ 様

—ご欠席—

新井 克弥 様	片桐 為義 様
---------	---------

事業者側から局の現況、及びJ:COMチャンネル(11ch)とJ:COMテレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】(山野井会長による進行)

#### ◆「デイリーニュース」について

**委員** 地域の情報や人をきめ細かく取材している地域密着のニュース番組だと感じている。地域に密着していることはJ:COMの強みなので、さらにネットワークを広げ、地域情報を吸い上げて欲しい。地域の人たちも期待しているはずだ。

**委員** 放送開始時から比べると、取材エリアも放送時間も拡大している。取材ネタの増加により、取材先の選定や人員の確保など苦勞が多いのではないかと思う。現在は8区(金沢区、港南区、栄区、戸塚区、中区、西区、磯子区、南区)のニュースが放送されているが、自分が住んでいる区以外のニュースに対しては関心が低くなる傾向がある。自分は以前、社内報の編集に携わっていたが、その時、社内報を社員に読んでもらうには、できるだけ多くの社員を誌面に登場させることが必要だということを学んだ。同様の考えから、「デイリーニュース」で数多くの地域住民を取り上げて、番組の視聴を高めて行って欲しい。

**事業者** 取材エリアが拡大して、取材ネタが増えたのは事実である。特に中区と西区は横浜市内の中心部であるので、もの凄い数の取材ネタがある。しかし、中区と西区の大きなニュースは地上波局や新聞、タウン誌などで取り上げられる可能性が高いので、「デ

イリーニュース」では地域に特化した地味なニュースも含めて8区をまんべんなく紹介するよう心掛けている。

**委員** 港南区で乳幼児の子育てをしている家庭に対してアンケート調査や聞き取り調査を行っているが、土日の遊び場所を尋ねると、港南区内でなく、みなとみらいと答える家庭が多かった。理由は、みなとみらいにはスマホで検索すれば楽しいスポットが見つかる、子供を遊ばせられる場所がある、買い物もできるからというものであった。従って、港南区でコミュニティ作りをしようと思ってお祭りを企画しても、子供たちが集まらないという現状がある。このことから、地域に特化した情報を発信しているJ:COMには、区内のイベント結果を放送するだけでなく、来週または来月、区内でこんなイベントがあるよ！という情報を発信して欲しい。そうすれば、子育て家庭を含めて近所の方々と知り合えるキッカケになるし、イベント主催者にも喜ばれると思う。

**事業者** 地域の小さいイベントを告知して欲しいとの依頼もあるので、「デイリーニュース」では金曜日に週末イベント情報（文字情報）というコーナーを設けている。その際、取材対象となるイベントについては、“デイリーニュース取材予定”という文言を付けている。

**委員** 文字だけだと弱いので、写真や具体的なイベント内容の案内なども付加してもらえるとありがたい。

**委員** 地元のイベントをしっかりと取り上げることは大事だと思う。ただ、一方で港南区や栄区等の人たちは週末に横浜の中心部へ出かけることもあるので、視聴者目線で8区のイベントをバランスよく紹介して欲しい。また、“デイリーニュース取材予定”という案内があれば、そのイベントに参加すれば自分がテレビに映るかもしれないという期待感にもつながると思う。

取材対象はJ:COMが独自に探しているのか、あるいは外部からの依頼によるものなのか？その割合は？

**事業者** 半々である。J:COM独自の場合、制作スタッフが取材ネタを探すこともあれば、地域プロデューサー（地域ステークホルダーとの関係構築を担うJ:COM社員）が地域ネットワークを通じて情報収集することもある。

**委員** 各地域には隠れた面白いイベントや人など、網にかかりにくいものもあるので、インターネットなどを駆使して情報を集めてもらいたい。

**委員** 取材依頼はどのようにして来るのか？

**事業者** インターネット、郵便、ファックス、電話、取材現場での直接依頼などがある。

#### ◆レギュラー番組について

**委員** 「横浜人図鑑」(横浜で活躍している人との対談番組)は、20分間ノーカットで放送され、出演者の正直なところが全て出るので非常に良い番組だ。

**委員** 「横浜人図鑑」のファンだ！出演者がバラエティに富んでいる。また、インタビュアーの宮内さんが温かい人柄なので、出演者がついつい本音をしゃべってしまうところが絶妙！出演者は「あっ、言っちゃった」ということになっていると思う。大変興味深い番組の一つである。

**事業者** 実は、この番組は全国のJ:COMでエリア毎にご当地人図鑑として放送されている。また、地域情報アプリ「ど・ろーかる」(J:COMで放送中の地域のニュースやお祭り、花火大会の生中継などを外出先でもスマホやタブレットで視聴できるアプリ)を使えば、「札幌人図鑑」から「熊本人図鑑」まで、全国各地の人図鑑を視聴することができる。

**委員** 「こどもかいぎ」(世の中に起こるさまざまな問題や身近な話題をテーマに、小学生が討論する番組)で、小学校を取り上げているのは興味深い。この番組を見て、地域の小学校の現状を紹介したり、OBの活躍ぶりを紹介したりする番組も制作すれば面白いと思った。

**委員** 卒業してから40年の節目で小学校の同窓会が開かれた。その時、会場で放映した映像の中で最も喜ばれたのは、40年前の校舎と現在の校舎の移り変わりが分かる映像だった。このような例もあるので、懐かしさを感じさせてくれる番組があってもいいと思う。

「こどもかいぎ」での子供たちの発言にはドキッとさせられる時があり、凄く面白い。この番組は総合学習の一環にもなっていると思うので、意義のある番組だ。

**委員** 「こどもかいぎ」での子供たちの発言は板に付いていて、期待が持てる。

**委員** 「タなび」で“わが町の生きもの自慢”がテーマになった時、金沢動物園を紹介してもらった。その際、動物園側の想いを理解してくれて、動物園の本来の目的など動物園として発信したい情報を放送してくれたところに好感が持てた。

#### ◆特別番組について

**委員** 「横浜開港祭」はクローズドの会場で開催されるので、この番組を生中継したこ

とで、神奈川県内の多くの方にイベント内容を知ってもらうことができ、かつ視聴がきっかけで来年は実際にイベントに行きたいと思ってもらうこともできただろう！

**事業者** この番組は生放送だったので、ツイッターを使って番組に対する感想や意見を募集した。最も反響があったのは横浜市歌が合唱された時で、「懐かしい」「覚えてた」等のコメントが寄せられた。

**委員** 横浜市民は小学校の頃から横浜市歌を習い、歌っているからね！

**委員** 高齢化が進み、現地に行きたくても行けない方がいる現状を考えると、生放送は臨場感をもって見ることができるので、これからも続けて欲しい。

**委員** 馬車道と吉田新田は、節目となる周年だったので特番化したのか？

**事業者** はい。馬車道は誕生 150 周年、吉田新田は完成 350 周年だった。

**委員** 今後の周年事業・イベントを紹介する予定は？

**事業者** 2018 年は金沢区制 70 周年、2019 年は戸塚区政 80 周年と港南区制 50 周年に当たるので、番組で取り上げる予定である。

**委員** 生放送は人手がかかるのではないかな？

**事業者** 生放送は収録番組より人手がかかる。しかし、今起こっていることをストレートに伝えることができるので効果的な場合が多い。特にスポーツがそうである。

**事業者** 人手がかかる生放送への対応として、神奈川県ケーブルテレビ協議会に加盟する県内のケーブルテレビ 8 社で共同制作するケース、または外部の制作会社を活用して制作するケースがある。

**委員** 今後、地域の歴史資産を番組で取り上げてはどうか？

**事業者** 歴史ものとしては、「泉秀樹の歴史を歩く」を毎月 1 本制作し、放送している。

**委員** 多くの人を楽しみにしている高校野球を生中継している点は評価できる。

**事業者** 2018 年も夏の高校野球を生中継する予定である。2018 年は第 100 回記念大会

となることから、神奈川県内を南北に分け、甲子園出場枠が2校になる。

**委員** 高校球児のお母さん方は、他の競技と比較して熱狂度が高いように感じられる。自分の息子がテレビに映るとなると、録画も含めて見ると思う。

また、「神奈川県高等学校総合体育大会バスケットボール」の放送も良いと思う。マンガ「スラムダンク」(1990年から1996年にかけて「週刊少年ジャンプ」にて連載された高校バスケットボールを題材にした作品)世代にはバスケットボール部出身者が多く、自分の子供をバスケットボール部に入れたいと考えている人が多いので、親子で見てもらえたのではないかな!

**委員** 昨年、三浦海岸でウインドサーフィンのワールドカップが開催された。沖合での競技となるため臨場感が伝わり辛い面もあるが、このような地元で開催されるマリンスポーツも番組化して欲しい。

**事業者** 昨年のウインドサーフィンワールドカップについては、「デイリーニュース(鎌倉/逗子)」で、毎日、結果を放送したほか、スポーツ専門チャンネルのJ SPORTSと組んで1時間の特別番組を放送した。

#### ◆災害対応について

**委員** 大災害時にJ:COMはどのような放送ができるのか?

**事業者** まず、台風や大雪など予測できるものについては、データ放送を強制表示することで情報発信できる。次に、強制L字放送がある。これは、行政から提供される防災情報を自動的に表示できる仕組みになっている。また、気象庁から発表される地震・津波・気象情報については、コミュニティチャンネルにてアラームを鳴らし、画面上部に文字情報を表示できるようになっている。さらに、緊急特別番組も考えられる。大地震が起きた場合、その状況下でどの程度の人員・機材等の体制が組めるかによるが、定期的に緊急特番の訓練を実施している。

**事業者** 大地震の際は、お客様へ放送サービスを継続的に提供できるようスタジオ、放送センター、各世帯へと繋がるケーブル設備を復帰させることを最優先に取り組む。その上で、緊急特番等を放送するが、地上波局が被災現場の惨状を映像で見せるようなことでなく、避難所やライフラインの情報など被災者に役立つ情報をきめ細かく伝えることに主眼を置いている。

**委員** 大変な取り組みだと思うが、情報発信基地としてのJ:COMを頼りにしている。

**事業者** コミュニティチャンネルの役割は、有事が起きた瞬間や直後の映像を放送することよりも、その後、避難者がいなくなるまで長期継続的に各種情報を提供することだと考えている。

**委員** 活発なご審議、ありがとうございました。

**事業者** 本日は、ありがとうございました。皆様から頂いた貴重なご意見を今後のより良い番組作りに役立てていきたい。

以上